

# くらしのなかの戦争展

7/16[土] ▶ 8/28[日]

10:00~18:00 (入館は17:30まで)

【期間中の休館日】

毎週月曜日(但し7/18は開館)、7/19(火)、8/2(火)

入館無料



毎夏、文化資料館では、市民の方からご提供いただいた戦争に関する資料を展示して、平和について考える機会の一つとしています。

今年は、日中戦争のために向日区から中国大陆へ出征した方の資料と、昭和16年(1941)1月から20年8月にいたる向日区の隣保班の記録簿を展示します。

隣保班は、昭和15年9月の内務省訓令により、戦時体制を支える大政翼賛会の下部組織として、全国の市区町村一部落(大字単位)の下に組織されました。運営を円滑にするため、定期的に常会を開いていました。

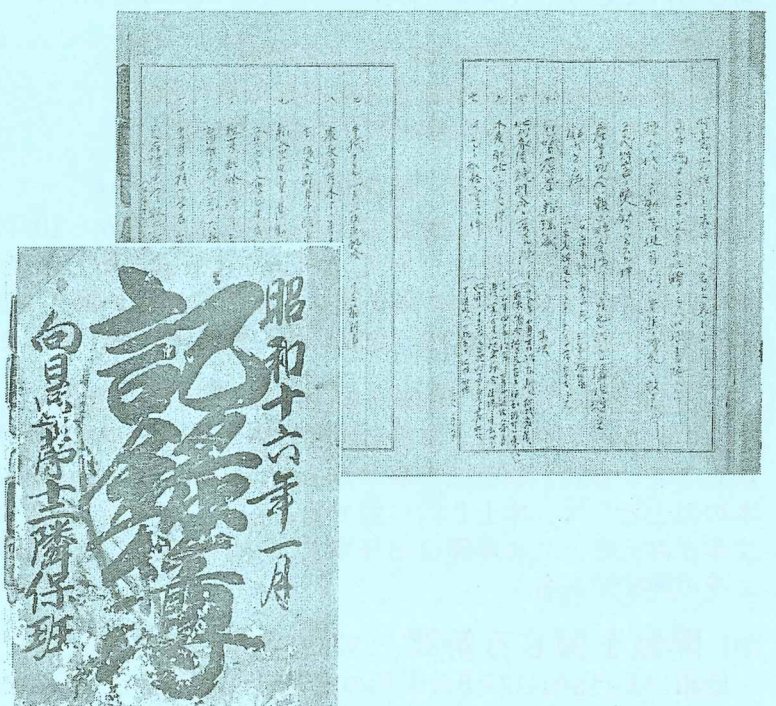
向日区の隣保班に残された常会の記録には、太平洋戦争開戦前後からの物資配給のようすなどが具体的に記されていて、戦時下での向日市域の人びとの暮らしぶりをうかがうことができます。

【日曜談話会】 \*参加無料  
事前申込み不要

7/24[日] 14:00~15:30

会場:向日市文化資料館 2階研修室

今年の「くらしのなかの戦争展」は、当館で活動する自主学习サークル“むこうまち歴史サークル”3班の資料整理活動のなかからうまれました。隣保班記録簿の内容をくわしく紹介するとともに、サークルメンバー自らの、戦争にまつわる体験などもまじえてお話しいただきます。



# 《展示資料一覧》 向日市文化資料館 令和4年(2022) くらしのなかの戦争展

※ 展示している資料は、すべて鶏冠井町(向日区)塩崎光義家寄贈資料です。  
※ 7/31(日)までの展示資料一覧。8/6(土)からは拡充して展示の予定です。

## 1 奉公袋<sup>ほうこうぶくろ</sup>

陸軍<sup>りくぐん</sup>において、軍人が入営や戦地に赴くときに必需品を入れて携行した袋。袋の裏側には「収納品」として軍隊手牒、勲章、記章などが書かれている。この袋の中にも軍隊手牒・記章・階級章、荷物梱包用の麻縄・油紙・送り札のほか、千人針やゲートル、お守りなどが収納されていた。

## 2 図囊<sup>ずのう</sup>

兵士が地図などを入れ、腰にさげたかばん。

## 3 内地帰還時の携行品証明書類 昭和14年(1939)9月

昭和13年5月に応召された塩崎正雄は、輜重兵(しちょうへい、軍需品の輸送・補給を任務とする)第百十六聯隊に属し、6月に中支派遣軍として中国大陸に渡る。武漢攻略戦などに参加し、翌年9月に揚子江沿いの安慶を発して大阪に帰還した時の携行品の証明書類。内地から持って行った日本刀やトランク、図囊、書籍などととともに、帰り際に安慶で購入したと思われる英漢辞典2冊と煙草を記載する。

## 4 書籍類

『輜重兵須知』、『野戦輜重兵必携』、『最新豆軍歌』、『標準軍歌集』、『新式英華雙解詞典』、『英漢模範字典』

## 5 帝国在郷軍人会向日町分会関係備品

帝国在郷軍人会は、地域の在郷軍人(兵役を終了したが、戦時には召集される民間人)の団体で、明治43年(1910)に陸軍の指導で結成され、のち海軍の団体も吸収し、昭和11年(1936)には軍の公的機関となった。展示品は、その向日町分会の備品で、「帝国在郷軍人会分会班長」のプレート(玄関などに掲示するものか)や印鑑・腕章・役員徽章などがまとめられていた。

## 6 記録簿 向日区第十二隣保班 昭和16年(1941)1月～20年8月

昭和16年1月12日の第1回隣組常会開催記録に始まり、昭和20年8月15日の「大東亜戦争終結」の記事で終わる、隣保班(隣組)の記録。向日区第十二隣保班は、西国街道沿いの町並みの南端、石塔寺までの14、5軒で組織された。この記録簿には、向日町や向日区を通じて降りてくる通達を伝達し、出征軍人への慰問品送付や防空訓練について相談したり、国債引き請けを割当て、さまざまな物資を配給しているようすが、つぶさに記録されている。向日市内でこうした隣保班の記録が確認されたのは初めてである。

## 7 感謝状 昭和17年(1942)8月8日

京都府市全料理飲食業組合の航空機献納に献金したことへの感謝状。国民の献金による軍用機献納運動は盛んで、当時の向日町でも何度も取り組まれていた。

## 8 昭和二十年日誌 昭和20年(1945)7月～10月

塩崎正雄が手帳に記した昭和20年(1945)7月6日から10月16日までの日誌。8月15日の記述に「早朝のラジオに本日正午重大放送ヲ伝フ、(中略)本日正午の放送に陛下自ラノ放送ナル旨ラジオ放送に伝フ」とある。正午には「家族全部揃ッテラジオノ前ニ立チ謹ンデ陛下ノ放送を聞ク、慟哭措ク能ハズ、遂ニ四国申入して受諾降伏ス、万事休ス、此程ノ事態ヲ何故政府ハ国民に早く知ラサザランヤ」と記されている。

## 9 興亜最新地図 昭和14年(1939) 朝日新聞社発行

日中戦争の勃発から2年後の昭和14年(1939)に発行されたもの。凡例の一番はじめに「事変二周年皇軍占拠地域」の淡い赤色の網掛けの表示があり、中国大陸の各地にこのしるしが記されている。また朝鮮半島・台湾が日本の領土として、本土と同じ色で表される。中国東北部には、昭和7年3月、日本が建国を宣言した「満州国」の文字がみえる。この地図は出征軍人への慰問品として向日町の大坂朝日新聞専売所からおくられたもので、裏面にその押印がある。

## 10 開戦を報じる新聞 大阪毎日新聞 昭和16年(1941)12月9日 夕刊

昭和16年(1941)12月8日未明の真珠湾攻撃を伝え、宣戦布告の大詔を掲載する。大詔にはふりがなが付されており、熟読した様子がうかがえる。

## 11 敗戦の日の新聞 読売新聞 昭和20年(1945)8月15日付

正午に放送された天皇詔書の全文が載る。展示する新聞は、昭和27年6月5日発行の文藝春秋臨時増刊号の附録として複製されたもの。